

1. 科目名 (単位数)	カウンセリング演習 (4単位)	3. 科目番号	EDPS3306
2. 授業担当教員	鎌田 依里		
4. 授業形態	講義 (ディスカッション)、演習 (ロールプレイ)、プレゼンテーション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	「カウンセリングの基礎」の単位を履修していることが望ましい (この科目は、心理学部であれば「カウンセリングの基礎」を履修させていくものですが、社会福祉学部や教育学部の学生は、ソーシャルワークや教育相談などで学習したものと関連します。)		
7. 講義概要	<p>カウンセリングの理論は、医療・教育・福祉の現場でも幅広く活用・実践されている。カウンセリングとは、何らかの援助を求める人 (クライアント) に対して、自己理解、環境理解と行動変容 (レポートが遅れがちの人が日時を守る、悩みが解消する、性格が明るくなる、など) を通して人をエンパワーすることを目的として、言語的・非言語的なコミュニケーションを道具として援助しようとする人間関係でありプロセスである。</p> <p>本講義では、カウンセリングの理論と技法の基礎を学びながら、単に頭で知識を学ぶのではなく、ロールプレイを通して、自分のコミュニケーションのあり方を振り返り、社会生活で健全な人間関係を形成するとともに問題を解決する能力を育てる。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. カウンセリングが具体的にどのような環境・方法で、どんな人達を対象に行われ役立っているのかを理解する。</li> <li>2. カウンセリングの基本的な態度・技法を習得し、実践できるようにする。</li> <li>3. さまざまなケースを通してクライアント理解を深め、対応のポイントを理解し、実践できるようにする。</li> <li>4. 社会生活で、人の生き方を尊重した支援ができるようになる。</li> </ol>		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習内容により、プリント課題や、授業中に行うロールプレイの逐語記録等が課される。</li> <li>・学期末にはレポートが課される。【教科書】</li> </ul>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 福山清蔵著、日精研心理臨床センター編『独習』入門カウンセリングワークブック』株式会社 日本・精神技術研究所、2006。</p> <p>【参考書】 授業内で適宜教示します。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会がクライアントの悩みの解決だけでなく、なぜ多くの人々がカウンセリング学習を求めるのか、その背景や理由が理解できる。</li> <li>2. カウンセリングの基礎的な理論や技法である精神分析・来談者中心療法・行動療法を復習した上に、現在の主要な理論となっている認知行動療法 (論理療法) を含めたさまざまなカウンセリング理論と技法が理解できる。</li> <li>3. 受講生がグループ発表を通して、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を高められる。</li> </ol> <p>○評定の方法</p> <p>[授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。]</p> <p>授業への参加 (出席、態度、発言) 50%</p> <p>レポート・発表・確認テスト 50%</p> <p>以上で評価を行う。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>カウンセリングを学ぶことは、カウンセラーを目指す人にとって必須となるのはもちろんのこと、「人と人との関わり」について真剣に想いを巡らすという点において、対人援助職を志す人すべてに役立つものである。本講義では、今までの基礎的な学びに基づき、より実践的な内容を扱う。受講する学生は、以下の点を大切に、講義に参加していただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他の受講生の学習に迷惑をかける行為は慎むこと。</li> <li>・授業中の携帯電話 (スマートフォン) の作動は厳禁である。</li> <li>・正当な理由がない限り、欠席・遅刻・早退をしないこと。欠席・遅刻・早退をした場合は、その理由を必ず教員に書面をもって報告すること。</li> </ul>		
13. オフィスアワー	別途お知らせします。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション ・カウンセリングとは何か	事前学習	教科書の目次と「はじめに」を読んでおく
		事後学習	授業内容について理解を深める
第2回	I クライアントの問題と問題へのアプローチ (講義と演習) 1. 障害除去のアプローチ	事前学習	教科書 pp.8~12 を読んでおく
		事後学習	授業内容について理解を深める
第3回	2. 内面へのアプローチ	事前学習	教科書 pp.13~19 を読んでおく
		事後学習	授業内容について理解を深める
第4回	第I章のまとめ	事前学習	教科書第I章の復習をしておく
		事後学習	授業内容について理解を深める
第5回	II クライアントの語り (講義と演習) 1. 話のなかの3つの要素	事前学習	教科書 pp.20~24 を読んでおく
		事後学習	授業内容について理解を深める
第6回	2. クライアントの訴え	事前学習	教科書 pp.25~26 を読んでおく

		事後学習	授業内容について理解を深める
第7回	3.フィードバック	事前学習	教科書 pp.27～31 を読んでおく
		事後学習	授業内容について理解を深める
第8回	4.感情の反射	事前学習	教科書 pp.32～35 を読んでおく
		事後学習	授業内容について理解を深める
第9回	第II章のまとめ	事前学習	教科書第II章を復習しておく
		事後学習	授業内容について理解を深める
第10回	IIIクライアントの話の背景（講義と演習） 1.話すことの意味	事前学習	教科書 p.36 を読んでおく
		事後学習	授業内容について理解を深める
第11回	2.夢、願い、期待	事前学習	教科書 pp.37～41 を読んでおく
		事後学習	授業内容について理解を深める
第12回	3.危機と悩み	事前学習	教科書 pp.42～47 を読んでおく
		事後学習	授業内容について理解を深める
第13回	第III章のまとめ	事前学習	教科書第III章の復習をしておく
		事後学習	授業内容について理解を深める
第14回	IVクライアントの心理（講義と演習） 1.クライアントの悩み	事前学習	教科書 pp.48～52 を読んでおく
		事後学習	授業内容について理解を深める
第15回	2.クライアントの準拠枠①	事前学習	教科書 pp.53～54 を読んでおく
		事後学習	授業内容について理解を深める
第16回	クライアントの準拠枠② 同化と調節	事前学習	教科書 pp.55～61 を読んでおく
		事後学習	授業内容について理解を深める
第17回	クライアントの準拠枠③ ものの見え方	事前学習	教科書 pp.62～68 を読んでおく
		事後学習	授業内容について理解を深める
第18回	3.クライアントの質問	事前学習	教科書 pp.69～71 を読んでおく
		事後学習	授業内容について理解を深める
第19回	4.カウンセラーの質問	事前学習	教科書 pp.72～75 を読んでおく
		事後学習	授業内容について理解を深める
第20回	第IV章のまとめ	事前学習	教科書第IV章の復習をしておく
		事後学習	授業内容について理解を深める
第21回	Vクライアントの理解（講義と演習） 1.外側からの理解	事前学習	教科書 pp.76～81 を読んでおく
		事後学習	授業内容について理解を深める
第22回	内側からの理解	事前学習	教科書 pp.82～84 を読んでおく
		事後学習	授業内容について理解を深める
第23回	2.クライアントとの関わり	事前学習	教科書 pp.85～91 を読んでおく
		事後学習	授業内容について理解を深める
第24回	3.言い換え	事前学習	教科書 pp.92～97 を読んでおく
		事後学習	授業内容について理解を深める
第25回	4.対話と沈黙	事前学習	教科書 pp.98～103 を読んでおく
		事後学習	授業内容について理解を深める
第26回	第V章のまとめ	事前学習	教科書第V章の復習をしておく
		事後学習	授業内容について理解を深める
第27回	VIクライアントとカウンセラーの対話分析 （講義と演習） 1.促進的会話と非促進的会話	事前学習	教科書 pp.104～111 を読んでおく
		事後学習	授業内容について理解を深める
第28回	2.促進的な応答	事前学習	教科書 pp.112～119 を読んでおく
		事後学習	授業内容について理解を深める
第29回	3.対話のプロセスレッスン	事前学習	教科書 pp.120～125 を読んでおく
		事後学習	授業内容について理解を深める
第30回	VIIカウンセリングのイメージ作り（講義と演習）	事前学習	教科書 p.126 を読んでおく
		事後学習	授業内容について理解を深める